

第4回 協働のまちづくり推進委員会 結果概要

【「元気な八戸づくり」市民提案制度・自由提案部門 企画提案事業ヒアリング審査会】

1. 開催日時・場所

平成26年5月30日（金）18時30分から20時00分
市庁別館2階 会議室C

2. 出席者

委員：北向秀幸委員長、佐藤博幸委員、五戸保夫委員、齊藤綾美委員、
田頭順子委員、西島拓委員
提案者：サイエンスを語るパブ（2名）
担当課：政策推進課（1名）
事務局：市民連携推進課（4名）

3. 会議概要

- ・事務局より、ヒアリング審査の流れ及び運用方針、提案事業の概要、本採点の実施方法について説明。
- ・提案のあった1件の事業について、提案者及び担当課からのヒアリング実施後、意見交換を実施し、最後に各委員による本採点を実施。
- ・本採点の結果を踏まえ、提案事業を協働事業候補として選定。
- ・付帯意見は次のとおり。
 - ① 担当課及び提案者は、協働事業として十分な連携をとっていただきたい。
 - ② 提案者は、事業の効果を把握するためにアンケートを実施していただきたい。
（講師や参加者の意見・感想、参加者の年齢・性別・職業等）
 - ③ 事業の進め方について、「サイエンスを語るパブ」のメンバーとなっている先生方に講師をしていただくことから始めて、八戸大使に講師になっていただくことを提案したい。
 - ④ 担当課は、「サイエンス・パブ」当日の運営も含めてサポートをしていただきたい。
（「サイエンス・パブ」の場づくり、八戸大使への十分な配慮等）
 - ⑤ 本事業は、八戸市内において初の試みであることから、担当課及び提案者は様々な媒体を活用した周知・広報に取り組んでいただきたい。

【協働事業候補選定事業】

団体名／事業名	事業概要
サイエンスを語るパブ ／八戸サイエンス★ナイト	<ul style="list-style-type: none">・世界で活躍している八戸大使や八戸高専、八戸工業大学、八戸学院大学といった市内高等教育機関の教授陣といった地域人材を講師に招き、サイエンス・パブを開催。・パブというカジュアルな雰囲気を出することで、単なる講演会のような一方的な知識伝達ではなく、講師と参加者による自由な討議を進め、双方にとって知的刺激を得られる場とし、市民が持つ八戸への「誇り」や「愛着」をさらに強めることを目指す。・また、中心市街地で継続して開催することで、サイエ

	ンス・パブの定着と中心市街地のにぎわい創出の一助となることを目指す。
--	------------------------------------

※ 詳細は議事録参照。

4. 今後のスケジュールについて

■ 今後のスケジュール

- ・ 7月15日（火） 第5回協働のまちづくり推進委員会開催
平成26年度「元気な八戸づくり」市民奨励金
（災害に強い地域づくり応援コース）交付対象事業の審査

第4回 八戸市協働のまちづくり推進委員会 議事録

【「元気な八戸づくり」市民提案制度・自由提案部門 企画提案事業ヒアリング審査会】

日 時 平成26年5月30日（金）18時30分から20時
場 所 市庁別館2階 会議室C

次第1. 開 会

次第2. 委員長あいさつ

次第3. 審査手順等について

【ヒアリング審査の流れ及び運用方針、提案事業の概要、本採点の実施方法について】
資料に基づき事務局から説明

次第4. ヒアリング審査

（提案者・担当課入室）

■委員長

ただいまから、『「元気な八戸づくり」市民提案制度・自由提案部門の企画提案事業ヒアリング審査』を実施いたします。

はじめに、事務局より、本日の出席者の紹介をお願いします。

【出席者紹介】

事務局より、協働のまちづくり推進委員会の各委員、提案者（サイエンスを語るパブ）及び担当課（政策推進課職員）を紹介

【提案者による事業概要説明】

■委員長

それでは、早速、提案者である「サイエンスを語るパブ」より、提案事業の概要について、ご説明をお願いいたします。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

今回の「サイエンス・パブ」を開催したいという提案についてですが、企画提案書にも記載しておりますとおり、八戸市の資源である地域人材の活用を図りつつ、八戸市民の知的欲求に応える場を提供するということを目的にしております。

八戸大使の皆さんの活動内容を市民の皆さんにPRする良い機会になり、市内の高等教育機関の先生方にとっても自分の研究をPRする機会になるのではないかと考えております

「サイエンス・パブ」というのは、もともとはイギリスで盛んに行われているものでして、八戸市ではまだ開催されておりませんが、最近では日本でも開催されております。例えば、星や科学などをテーマに開催されておりまして、名古屋や京都などで多く開催されております。八戸におきましてもアカデミックな形、パブという形を取りながら、楽しく皆さんが語り合う場所が必要ではないかと考えまして提案いたしました。

■サイエンスを語るパブ（B氏）

大学教授や研究者の方による科学のお話を聞く機会というのは、普通は大学で講義を受けたり、講演会で聴講したりという機会しかありません。そのような機会では、一般的に受講される方も多いことから、質問しようと思っても敷居が高いと申しますか、なかなか難しいことが多いと思います。

今回はパブという形を取りますので、お酒が入ってもいいと考えています。そうすることで、講師となる教授の皆さんとざくばらんな話をすることができます。また、教授の皆さんも研究室で話をするのとは違って、堅苦しくはない、可能性の話もしてくれます。厳密ではなくても、興味のある話をしてくれますので、参加された皆さんも座学で話を聞くよりも頭の中でいろんな発想が展開されていくと思います。

興味がわいてくるというのはとても楽しいことだと思いますので、是非ともそういった場をつくって、いろんな先生方に来ていただいて、ロコミからロコミで科学の分野に興味を持ってくださる方がますます増えてくれればいいなと考えています。ひいては、子どもたちにも影響を及ぼしていくことだと思いますので、まちのカラーにもなっていくのではないかと期待しています。

【質疑応答】

■委員長

ご説明ありがとうございました。

続いて、質疑応答に入りたいと思います。

「サイエンス・パブ」という言葉自体を今回の提案で初めて聞きました。インターネットでどういうものかと若干調べましたが、私も含めて委員の皆さんは体験したことがないのでいろんな質問が出ています。

今回のヒアリング審査ですが、基本的には今後事業化できるように意見交換を行う場、事業の方向性を確認させていただく場という意味合いになります。提案された企画自体は予算がかかっていないことから、事業の方向性の話を中心になるかと思っておりますので、お答えいただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、順にお願いいたします。

■委員

私は八戸市で開催している「市民大学講座」を時々受講しているのですが、受講された経験はありますか。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

林真理子さんがいらっしゃったときに、一度受講したことがあります。

■委員

受講された印象はどういうものでしたか。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

「市民大学講座」という機会が提供されていること、貴重なお話を聞くことができたことが良かったと思えました。

■委員

私もとても「市民大学講座」を楽しみにしている一人なのですが、「市民大学講座」とは趣向が違って、敷居をずっと下げて、身近で大学教授の方などとお話ができる、触れ合うことができるというのはとても面白い取組だなと思っています。新しい「学びの場」の提供という捉え方をしています。いろいろな学びのパターンがあつていいと思いますので、その中で自分が興味のあることに機会を捉えて関わっていければいいなと思っています。

ただ、身近に触れ合うことができ、その場は楽しくても、そのことが次にどのようにつながっていくのかということがわからない部分がありますので、お聞かせいただけますか。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

大学教授の方などと身近で話ができるというのは、普段一緒にいるスタッフだけが二次会などで経験されていることだと思のですが、そのような機会を市民の方たちに提供するということが目的にあります。興味関心がない方は近寄らないとは思いますが、少しでも興味のある方が「〇〇先生が来ていて、こういう雰囲気・場所でお話をされるのだな。」と思えば、必ず「入ってみようかな。」となると思います。

テーマによっても興味関心の度合いは違うと思いますので、いろいろなテーマで開催していくうちに、参加する方々も増えてくるのではないかと考えています。「サイエンス・パブ」の参加者が増えるということは、まちの賑わい創出にもなりますし、はっちの来館者の増加にもなるということで、中心市街地の活性化という観点からも効果があるのではないかと考えています。

■サイエンスを語るパブ（B氏）

正直に申し上げまして、八戸で初めて行くことですから、どれだけの市民の皆さんに参加していただけるかということは予想ができないというのが事実です。

ただ、はっちの中で、ものづくりですとか、ロボットによる騎馬打毬のイベントが開催された際には、関係者の皆さんが店に集まってきて、技術的な話などを通して親交を深めてくれたり、新たな親交が生まれたりしているところを見ています。「サイエンス・パブ」には、そのような要素もあるのではないかなと思っています。

「サイエンス・パブ」で、講師の先生を身近に感じながら話を聞いて、知的な楽しみを覚えてもらう。参加者が講師の先生のファンの場合は、とても楽しい・嬉しいことですよね。そのような体験が口コミで伝わっていくといいなと考えています。

■委員

幅広い知識・教養を提供するということかと思いますが、あるひとつの専門的な知識を深めていきたいという参加者の方もいるかと思っています。

■サイエンスを語るパブ（B氏）

八戸は産業都市でもありますので、様々な分野で優れた技術を持った事業所がたくさんあります。そのような事業所の方たちが「サイエンス・パブ」に参加されると、レベルが大幅に上がると思います。また、そのような技術者の方たちが、講師の教授をタジタジにすることがあるかもしれません。そういうことも面白みがあつていいのかなと考えています。

■委員長

〇〇委員がよろしければ、続いて〇〇委員からご質問をお願いします。

■委員

私の方からは、事業費について確認させていただきたいと思います。

八戸大使への謝礼や広報活動費はどのように考えていらっしゃるかということです。提案者からの計画では事業費 0 円ということになっていますが、担当課とどのように役割を

分担していくかということをお教えいただければ幸いです。

■政策推進課

今回、八戸大使の方を「サイエンス・パブ」の講師としてお招きしたいというご提案をいただいたわけですが、八戸大使につきましては政策推進課が担当をしております、市内の小中学校といった教育機関に八戸大使の方々を講師として派遣する事業を行っております。

八戸大使の方は東京在住の方が多いのですが、八戸大使に当該事業の講師としてお越しいただく際には、八戸に来ていただくための旅費と1回の講義につき附属機関の委員の皆さまと同額の8,800円の謝礼をお支払いしております、これは八戸市で予算措置しております。

年間でトータル15回くらい講師の派遣をしているのですが、講師として八戸にお越しいただいた八戸大使の方のご都合がよろしければ、教育機関で講師をしていただいた夜に「サイエンス・パブ」にご協力いただけるように交渉することを考えております、サイエンス・パブでお話いただくことにつきましては、ボランティアでのご協力をお願いすることを考えております。

■委員

広報活動はどういった内容で実施することをお考えでしょうか。

■政策推進課

市と協働提案という形になりますので、タイミングが合えば「広報はちのへ」への記事の掲載が可能だと考えております。タイミングと申しますのは、締切の関係がございますので、2ヶ月前ぐらいに開催が決まっておりますら記事の掲載が可能なのですが、そうではない場合は「広報はちのへ」は難しいなと考えております。

サイエンスを語るパブさんからご提案もあったのですが、最近ですと、フェイスブックによるPRや会員になっている大学の先生方個人のブログ上でのPRもできると考えておりますし、街中では八戸工業大学さんがサテライトをお持ちなので、そのような場でのPRも可能だと考えております。また、八戸学院大学さんも、八戸工業大学さんも、八戸高専さんも協力のほうに入ってきてくださっていることから、大学を通じてのPRもできるかと考えておりますので、あまり予算をかけなくてもPRは可能だと考えております。

■委員

今回の企画を八戸で開催するということは初めてということで、私もインターネットでは調べてみたのですが、イメージがわきにくいということがありました。

参加者数が20名程度と計画されていますが、会場自体は何人くらい入るのでしょうか。スタッフの方もいると思いますので、総勢何名程度で開催される見込みでしょうか。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

席数は36席あります。スタッフは3名から5名の従業員にしてもらうことになります。会場の収容人数から考えますと、20名以上の参加も可能です。椅子席だけだと、50名程度は入ると思います。会場となる店舗ははちの1階で、カネイリミュージアムショップの奥になりますが、場所は広いです。

先日、はちのへワインフェスでチーズのセミナーが開催されたときは、60名近くの方にお越しいただきました。

■委員

講師の先生と参加者が議論するというイメージを持っているのですが、参加者がそれぞれで議論するというのも可能なのですか。

■政策推進課

参加者同士で議論していただくこともいいと思います。

メインで話をしてくださる先生はいらっしゃいますが、ベースはパブという形式なので、先生の話聞いて、参加者同士で「私は～と思う。」という議論が会場の各所で盛り上がるということはいいことだと思います。

■委員

参加者同士での議論も可能なんですね。

■サイエンスを語るパブ（B氏）

広報活動に関しましては、はっちの中にBeFMのサテライトがありまして、私たちもよく広報をさせていただいているのですが、ラジオでの広報も考えています。

■委員

わかりました。ありがとうございました。

■委員長

〇〇委員がよろしければ、続いて〇〇委員からご質問をお願いします。

■委員

年に2回開催するというのですが、もう少し開催回数を増やすという意向はございますか。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

八戸大使の方を講師にお迎えしての開催は年に2回ということで考えております。そのほかに、「サイエンス・パブ」の取組が広がって行って、市外の大学の先生方が八戸にお越しの際にご協力いただけることがあれば、講師をお願いして開催回数を増やしていければと考えております。

■委員

メンバーとなっている大学等の教授陣からではなく、八戸大使から取組を始められるイメージなんですね。工業大学や高専の先生たちに講師をしていただくことから始めて、八戸大使に講師になっていただくという流れの方が、広がりが出るのかなというように感じました。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

そのようなやり方もいいと思います。

■委員

市民の皆さんの中には八戸大使を知らない方もいらっしゃると思いますが、市内の大学の先生たちであれば、顔見知りの先生たちもいらっしゃると思います。市内の先生たちが「サイエンス・パブ」の講師となることで、まとまった人数の参加が見込めると思いますし、盛況に開催されることは結果として広報にもつながり、八戸大使が講師になるときにいい流れができていないかなと考えていました。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

参考になりました。ありがとうございます。

■委員

「サイエンス・パブ」のテーマは事前にお知らせするというお話をお聞いておりましたが、テーマは科学の分野に限られるのでしょうか。

■政策推進課

科学と言いましても、可能な限り幅広い分野で開催したいと考えております。

■委員

八戸大使の方には文科系の方もいらっしゃいますよね。

■政策推進課

文科系の方が多いです。

■委員

サイエンスと冠していても、文科系の方もお招きするということですね。

「サイエンス・パブ」の開催の様子は、レポートという形で残して発信することはお考えですか。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

レポートの形で残すということはない方針でおりますが、講師の先生たちのご承諾が得られれば、「サイエンス・パブ」の様子をビデオ撮影させていただきまして、YouTube等で公開・発信するということが可能だと考えております。

ただ、内容によってはご承諾いただけないこともあるかと思っておりますので、講師の先生の意向に沿った形で運営していきたいと思っております。

■委員

対象者は市民の皆さん全般になるかと思っておりますが、テーマに興味を持つ高校生でも参加は可能でしょうか。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

どんな方でも来ていただければと思います。ただ、アルコールを提供したり、夜に開催したりということがあるので、小学生の来場は難しいと思います。

■委員長

〇〇委員がよろしければ、続いて〇〇委員からご質問をお願いします。

■委員

大学生や市民の関心のある方が対象ということですが、一番のメインの対象者はどういう層を狙っているのでしょうか。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

飲食店などの経営でもいわれることで、ある程度対象者の年齢を絞って考えないと成功しないという話をよく聞きますが、この事業に関しては、はっきり言って幅広い年代の方に参加していただきたいと考えておりまして、このようなお話をすると「漠然としている」という風を感じられることと思っております。

先日もはっちで開催されたのですが、私たちははっちから委託されて「投げ銭ストリートライブ」という音楽の活動をしています。そのイベントのときも誰が来るかはわからないのですが、実際開催してみると、通りがかりで興味のある方は座って聞いていきますし、興味のない方は通り過ぎていきます。その中で、普段は絶対にこのような音楽イベントには参加しないような80歳代の母親と60歳代の娘さんというような方たちが手を叩いて喜んで、「普段行けないので、こういうイベントをはっちで観ることができてよかった」とおっしゃっていただきました。

ですから、「この年代の人たちに是非聞いていただきたい」ということではなく、会場のそばにいる方たちが興味を持って参加してくださるのであれば、年齢は問わず、間口を広げていけばいいのかなと考えています。

■委員

そういう考え方もいいかと思っております。

関連する質問になりますが、例えば、周りで観ていて飛び入りで聞きたいというときに席がなければ立って参加するということが可能ですか。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

それは可能です。ただ、「サイエンス・パブ」への参加に当たっては、立っての参加とい

うことでもワンドリンクのオーダーはお願いしようと考えていました。

■委員

わかりました。ありがとうございました。

■委員長

〇〇委員がよろしければ、続いて〇〇委員からご質問をお願いします。

■委員

『「サイエンス・パブ」を開催することで、八戸市民の知的欲求に応える事業』と計画書に書かれていますが、事業を実施した結果どんな成果が得られて、その成果をどのように計るかというところが具体的に見えてこないのので、参加された方の満足度というようなことで結構ですので、どんな方法で把握しようと考えておられるかお聞きしたいと思います。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

このような学習機会があるということで、市民の皆さんにおいては、楽しければ「次の機会も参加しよう」となるでしょうし、つまらなければ「もう行かない」となるでしょうから、とてもわかりやすいと思います。

講師となる先生たちにとっては、ご自身の研究のPRの機会になるほか、研究内容を発表することによってご自身を知っていただける機会になると思います。

このほかにも、「サイエンス・パブ」の開催は、はっちの入館者増にもつながりますし、まだまだ全国的には少ない取組ではあると思いますので、先駆けて取り組むということは八戸市の魅力の向上、全国に向けた八戸市のPRにもつながると思います。

■サイエンスを語るパブ（B氏）

全容を把握する手段は、ちょっとないのではないかと思います。なぜかと申しますと、知的な興味がどうなったかということ計ることはできないものですから。

ただ、このような取組をしている市町村は東北では少ないかと思います。八戸でこのような取組をしているということ、市民の皆さんが参加することができる学習機会があるということは、他の市町村に対して大きなインパクトを与えることができるのではないかと考えています。

確かに何か把握できるものがあればいいとは思いますが。

■政策推進課

行政側としても、新たな事業に取り組むときには成果の計り方、事業の効果を計るための指標の設定ということは言われますが、幸福度を計ることと同じようになかなか難しいのかなと感じています。

目に見える評価とすれば、例えば入場者・来場者の数をカウントするというのもひとつの手ではありますけれども、一般的な講演で定員が100名という場合に、動員がかかった結果100名参加したということであれば、評価の仕方としては疑問に思うところではあります。

それよりも、参加した方が議論に入ってきて、議論が深まっていくという方が参加した方の満足度は高いのではないかなと思います。今回、パブという形で開催して下さるので、面白くなければ途中で出て行っていいわけですし、途中から入ってくることもあると思います。その夜に参加して下さった方の満足度が高ければ最初から最後まで、さらには時間を延長してでもいらっしゃるというように滞在時間が長くなっていくだろうと考えています。ですから、時間軸での取り方もひとつあるのかなと考えています。

評価の方法としては、参加して席についているということと、それぞれの人たちが科学的な刺激を受けて議論に参加して議論が深まっていくという目に見えない部分ということがあるのかなと考えておりますけれども、数字では取りにくい部分だなと実際考えていま

す。

■委員

事業を実施するときには、「事業を実施した結果、どんな成果が得られたか。」と当然なるわけです。1年後、自分たちの事業を評価するときどんな報告書を作成するかというところまでイメージしておかないと、当日の把握が不十分になるのではないかと懸念しておりました。皆さんからは、参加者にアンケートを取ることを予定しているというような回答があるのではないかと思います、質問したところです。

事業を実施したことによる成果という点については、報告書を作成するときを想定して、できるだけ明確にし、参加者の声を聞いたということがあったほうがいいと思います。

■委員長

〇〇委員からよろしければ、私からも質問をさせていただきたいと思います。

今回、行政との協働という形を取っていますが、八戸大使という名前は知っていても、八戸大使と接するという事は講演会においては名刺交換くらいしかできないものですから、八戸大使と交流の機会を持つということは行政と一緒に取り組まない限りはなかなか難しいことだと思います。その辺は「サイエンス・パブ」という非常にやわらかい企画ではあるのですが、八戸大使を活かそうという方向性は非常に賛同するところです。

一方で、ひとつ心配しているのは、八戸大使にわざわざ来ていただいた上に、夜まで講師をしていただくということで、八戸に何かを残して帰ろうという意欲を持って来ていただいている方に対して、「八戸に帰ってきて夜も楽しい時間が過ごせたな」と感じていただけるようにするために、どのような配慮、サポートをしていくのかという点で、運営面が少し気になる部分としてあります。

「サイエンス・パブ」当日のコーディネートも担当されるということが提案書に書かれていますが、運営面に関して他都市の事例などお聞かせいただければと思います。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

他都市の状況を聞き取りしたわけではありませんので、他都市の事例を把握しているわけではないのですが、先生も身近に出るような感覚で市民の皆さんと飲食も共にするという事業のイメージを持っていました。

私たちの方では、わざわざお越しいただいて、夜まで講師をお願いするという事になりますので、謝礼をお支払いするという形は取れないのですが、食事などは無償で提供させていただくということは考えておりました。

■委員長

「サイエンス・パブ」の講師の方のタイプによっては、自分からどんどん場をつくっていくタイプの方もいるでしょうし、相手とのコミュニケーションの中で場をつくるタイプの方もいることでしょう。「場づくり」という面で、どのようにコーディネートすることをお考えかお聞かせ願えますか。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

ナビゲーター役として実行委員会のメンバーの大学等の先生にお越しいただきまして、冒頭で当日のテーマなどについてお話いただき、議論の展開と参加者から発言していただけるような下地をつくっていただくことや進行をしていただくことを考えております。

■委員長

ナビゲーターとなる方は、場面の空気をつかんで引っ張ることができるという目処がついているということで判断してもよろしいでしょうか。

■政策推進課

ファシリテーター役に慣れていらっしゃる先生がおりますので。

■委員長

その辺がしっかりしていれば、八戸までお越しくださってお話してくれるという八戸大使の方に対しても、参加者の皆さんに対しても、「楽しかったね」と言っていただけの「場」をつくることのできるのかなと思います。

パブということでカジュアルな雰囲気の間になるのですが、そのような場面をつくれるかということは運営する側の役割になると思いますので、やはり運営の仕方は重要だと思います。その辺の工夫がどこまでされているのか、工夫する手はずを整えていけるのかということをご心配していました。

私も講師としてお話をさせていただいたことがあるのですが、非常にしっかり運営されているところと、そうではないところがありますので、そういったところを少し心配しておりました。協力者がおられるようですので、大丈夫そうだなと感じました。

私の方は以上ですが、委員の皆さんから他にご質問はございますか。

■委員

私事になるのですが、大学で開催されているシニアカレッジというものがあまして、時間が取れたときに参加しています。大学の先生や地域の文化の伝承者の方、独特な取組をされている方などからお話を聞くことができ講義自体も楽しいのですが、シニアカレッジに参加された全国各地の方たちと交流することができるというのがすごく面白いんですね。「サイエンス・パブ」がそういうところまで行ければいいのかなと、自分なりに思っています。

■サイエンスを語るパブ（A氏）

そういった場所で楽しんでおられるということをお聞きして、そのようになっていければいいなと思いました。

■政策推進課

八戸市民の皆さんは、学習意欲の高い方々が多いと思います。お話いただきました市民大学講座は年間20本くらいの講座を提供しており、大変長い歴史を持っています。そのほかにも高齢者大学の講座もございますし、八戸工業大学や八戸学院大学、八戸高専それぞれで公開講座も実施されており、すごく勉強熱心な方が多いのかなと感じております。

座学で勉強しようというのもひとつではありますが、最近増えている形態としてレストランなどが主催しているワイン会のようなものがあります。ただ単に美味しく飲みましょう、食べましょうではなくて、ワインを産地別に勉強しましょう、ぶどうの品種別に勉強しましょうというように、単なる飲み会ではなく、頭の方にも栄養を入れながら楽しみましょうというような企画が増えてきているなど感じておりまして、市民の皆さんにもニーズがあるのだろうなと感じていました。

■委員

市民大学講座はすばらしい方々を講師にお招きして、大変いい事業であると思いますが、「サイエンス・パブ」はそこに風穴をあける可能性がある事業なのかなと楽しみにしています。

■政策推進課

市民大学講座はおおむね水曜日の夜に開催しておりまして、「サイエンス・パブ」と重なる部分もあります。

棲み分けとすると、「サイエンス・パブ」は会場がお店で、お酒もあって、カジュアルな雰囲気の中で、先生とすごく距離が近いところでお話ができるという楽しさの部分があると思います。

市民大学講座は90分というコマの中で、最後の10分くらいを残して質問を取ってくだ

さいます。その時々聴講者の空気感ということもあるかとは思いますが、会場が公民館のホールで、あれだけの聴講者の中で手を挙げて質問というのは少しハードルが高い、勇気が必要な部分もあるのかなと思っています。

■サイエンスを語るパブ（B氏）

「サイエンス・パブ」では、少し踏み込んだ話でも先生に聞くことができると思っています。そのような点は、起業家の方たちにもいい影響を与えていると思っていますので、是非事業を実施させていただければと思います。

■委員

この企画は、はっちで開催するということが、新しい人の流れをつくることができるという点ですごくいいなと思います。また、パブを運営するメンバーに八戸学院大学と八戸工業大学、八戸高専の先生たちが参加されていて、個々の学校単独での取組ではなく、ネットワークを組んで行うということで、市を挙げての取組になるのではないかと大変期待しています。

■委員長

委員の皆さんからは意見やアドバイスのほか、応援に近いコメントも出ておりますけれども、他に確認したいことや質問事項はございませんか。

質問がなければ、これでヒアリング審査は終わらせていただきたいと思います。

なお、審査の結果は、後日、事務局よりお知らせいたします。

それでは、提案者及び担当課の皆さまは退室いただいて結構です。本日はお疲れさまでした。

（提案者・担当課退室）

次第5. 意見交換・審査結果の決定

■委員長

それでは、これより意見交換を行いたいと思います。

ただいまのヒアリングの結果を踏まえまして、このあと本採点をするようになりますが、提案内容について何かご意見等はございますか。

■委員

事業を実施することでどれだけの効果・成果を得られるかという部分は、ある程度対応を考えてもらわなければいけないと思います。

■委員長

今回対応をするのが政策推進課になりまして、提案の段階での政策推進課の役割は八戸大使との連絡調整と周知支援ということになっています。実際に「サイエンス・パブ」が開催されるときに、講師となる八戸大使の方をサポートしないということはないかと思いますが、運営の面も含めて、事業化にあたっては、政策推進課と提案者との間で今後協議を続けていくということになりますか。

■事務局

本日の本採点の結果、協働事業候補として選考された場合は、担当課と提案者の間で事業化に向けた協議を行うこととなります。今お話があったような当日のコーディネートの仕方など、政策推進課でどのように進めていくかというような詳細を詰めていって事業化するという流れになります。

■委員長

資料6をご覧くださいと思います。

皆さんからいただいた意見一覧になっているのですが、書類審査の点数も記載されておりまして、獲得平均点は7割を少し超えているという状況で、特にすごい事業ということではないが、ダメということでもないというような点数になっております。

協働事業候補として選定するのは概ね7割以上ということになりますので、書類審査の段階では基準を満たしています。

本日のヒアリングの結果を踏まえて本採点をしていただいて、獲得平均点が概ね7割以上となれば協働事業候補として選定され、事業化に向けて進んでいただくという流れになります。

書類審査の結果を基準別にみますと、「協働性」だけが6.8点と7割を切った点数になっていますが、政策推進課とどのように協力しながら事業化していくのかということでしょうね。ヒアリングでは、政策推進課が十分なサポートをしようという姿勢はよくわかりましたが、事業化にあたっては、実際の運営を含めていろいろ協力していく必要があると思っています。運営面では、政策推進課のサポートが大事になってくると思っています。

「協働性」の点数が低いのは、政策推進課の役割が八戸大使との連絡調整だけなのかなというように、相乗効果というところで一緒に取組むという意味が少し見えなかったのかなという気がしています。

■委員

事前にいただいていた資料の中に政策推進課からの「市の意見」というものがあるのですが、適格性があるという評価をしています。資料の下の方に適格性を判断するための項目が何点か示されておりまして、その中に「八戸市の課題の解決やまちづくりのための政策、事業となっているか。」という項目があります。私はここを読んで、今回の事業はそういう面では薄いなというところから評価を始めました。

実施可能性・効果に関する政策推進課の意見を見ても、「誇り」や「愛着」というように非常に抽象的な表現が多く、成果を計りにくい内容になっています。八戸市民の知的欲求が満たされていないので、この事業を行うというようになっていないのではないかと考えて評価しました。狙いが抽象的なので、期待する効果も抽象的になっているという気がしています。

政策推進課のほうは適格であるといっているのですが、このような発言をしていいものか迷っていたところではあるのですが。

■委員

「サイエンス・パブ」をどのように考えるかという部分だと思います。

インターネットで調べてみたのですが、非常に盛り上がっていて、10数回継続して開催しており、毎回大盛況だという地域もありました。そのような事例から考えると、今年度1回、2回開催した結果だけで評価するというのは難しい部分があると思うのですが、「サイエンス・パブ」が盛り上がって行って、継続して開催されるようになると、きっかけとしてはすごくいいのかなと思います。民間や個人だけできっかけをつくらうとするのは難しいので、そういった意味では、行政と一緒に取り組んで、八戸大使を講師として活用するというのは有効だと思ってみていました。

1年後にどんな効果が得られたかということの評価するのは難しいとは思いますが、数年後に継続して開催されていけば、いいきっかけになったと評価できるのではないかと思います。

先ほどもお話したように、他都市では盛り上がっているようですので、今後八戸でも広がっていくような気がして、面白そうだなと思っています。

■委員

個人的に八戸大使を活用するということはすごく難しいことで、八戸大使を活用するためには担当課の協力が必要になりますので、協働による取組は強みになると思います。

メンバーの教授陣をみますと、まちづくりに力を注いでいる先生もいらっしゃいますので、将来的に行政の手を離れても、メンバーの先生たちが講師を招いて継続して開催することができると思うので、私はすごくいい事業だと思います。

科学の分野に興味がない方は、最初のうちは事業に対して戸惑いを感じるかもしれませんが、「サイエンス・パブ」が盛り上がっていくと、この取組が文科系などの違う分野にも派生して行って、まちが盛り上がるのではないかなと思います。

■委員

初めての事業ですから、どこまで見通しを持っているかはわかりませんし、講師を招くにも興味関心の実態をどこまで把握しているかということもわからないところではあります。

■委員長

私としては、企画が面白いということよりも、主催者や担当者の皆さんが楽しんで取り組んでいれば、参加者は集まってくると思っています。計画としては20人ですから、そんなに難しい数字ではないと考えています。

「熱を帯びれば、人は集まる」と思いますので、「熱を帯びれば」となるように取り組んでもらえればなという期待をしています。

評価ということに関しては、〇〇委員から何度か意見が出されておりますけれども、1年後には報告書が提出されるわけです。開催が2回だけであれば、なかなか評価することは難しいことだと思いますけれども、評価しやすくなるようにこういう点は盛り込んで欲しいということがありましたら、ご意見をいただければと思います。

皆さんであれば、どういうストーリーで報告書を作成しますか。

■委員

アンケートを取るということが一番だとは思いますが。

アンケートを取って、自由に感想を書いてもらうという中で、参加された皆さんがどう満足したかということがみえてくると思いますので、アンケートはやってもらったほうがいいのかなと思います。

■委員長

現場の声を形にしてもらおうほうがいいですね。

■委員

参加した感想という感じですかね。

■委員

参加した全員に強制ということではなく、何か意見・感想があったらという程度の軽い感じでいいかと思いますけれども。

■事務局

参加された方や実際に講師としてお越しいただいた八戸大使の方の感想ということでしょうか。

■委員長

そうですね。

感想は何らかの形で取らないと、来年度以降取り組んでいくに当たって、こういう声がありましたということがないと、評価することが難しい事業になってしまいますので。

■委員

参加された方の年齢や性別、職業といったことも把握できていた方がいいのかなと思います

■委員長

先日の活動成果発表会の総評の際にも話しましたが、記録はきっちり残しておいて欲しいところですので、是非お願いしたいと思います。

それでは、いろいろ意見も出た感がありますので、期待値も含めて本採点をお願いしたいと思います。

(事務局において、各委員の採点を集計)

■委員長

それでは、委員会を再開します。

事務局より、採点の集計結果について、発表をお願いいたします。

(事務局より、獲得平均点を発表)

■委員長

協働事業候補は、獲得平均点が概ね7割以上の案件について、選考することとなっております。審査点数は50点満点ですので、7割以上というと35点以上ということになります。

獲得平均点が35点以上となった「サイエンスを語るパブ」の提案について、協働事業候補として選定したいと思います。委員の皆さまいかがでしょうか。

(委員賛同)

■委員長

それでは、皆さまよりご賛同いただきましたので、「サイエンスを語るパブ」の提案を協働事業候補として選定したいと思います。

ただいま、「サイエンスを語るパブ」の提案を協働事業候補として選定したところですが、この提案について、今後「事業化協議」が始まることとなります。

先ほど皆さまからアドバイスも様々出ましたので、決定通知書と一緒に附帯意見のような形でお知らせしたいと思います。

意見といたしましては、

- ① 担当課及び提案者は、協働事業として十分な連携をとっていただきたい。
- ② 提案者は、事業の効果を把握するためにアンケートを実施していただきたい。
(講師や参加者の意見・感想、参加者の年齢・性別・職業等)
- ③ 事業の進め方について、「サイエンスを語るパブ」のメンバーとなっている先生方に講師をしていただくことから始めて、八戸大使に講師になっていただくというのを提案したい。
- ④ 担当課は、「サイエンス・パブ」当日の運営も含めてサポートをしていただきたい。
(「サイエンス・パブ」の場づくり、八戸大使への十分な配慮等)
- ⑤ 本事業は、八戸市内において初の試みであることから、担当課及び提案者は様々な媒体を活用した周知・広報に取り組んでいただきたい。

というところかと思います。

広報に関する部分につきましては、質問もさせていただいて、回答もいただいておりますので大丈夫かとは思いますが。

■事務局

ただいまのアドバイスにつきましては、事務局で取りまとめまして、委員長にご確認いただいたあとに提案者と担当課に送付するという流れで進めさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

■委員長

それでは、これで審査は終了させていただきまして、進行を事務局にお返しします。

次第6. その他

今後のスケジュールについて

■事務局

～委員会開催予定日の日程変更について通知～

- ・7月15日（火）18時30分～ 第5回協働のまちづくり推進委員会開催
- ・平成26年度市民奨励金（災害に強い地域づくり応援コース）交付対象事業の書類審査

7. 閉 会